

地域ケア会議の開催状況について

【目的等】

- 医療と介護の連携にあたって、地域包括ケアシステムの構築が重要であるため、上小地域の地域包括支援センター及び市町村へ地域ケア会議の開催状況についてアンケートにより調査したもの
- 回答数は 13 件

1. 年間の開催回数 最大 10 回（平均 4 回程度）

2. 各会議で担っている役割、機能（複数回答あり）

- 個別課題解決機能 8 件
- ネットワーク構築機能 1 2 件
- 地域課題発見機能 1 1 件
- 地域づくり、資源開発機能 8 件
- 政策形成機能 1 件

3. 会議では医療と介護の連携について取扱い状況

- ある 5 件
- ない 8 件

4. 会議の参集範囲（職種）はどのような方々ですか。

自治体職員	1 2	包括職員	1 2	ケアマネージャー	1 0
介護事業者	9	民生員	8		
OT	3	PT	3	ST	0
医師	1	歯科医師	1	薬剤師	8
看護師	3	管理栄養士	1	歯科衛生士	0
その他	相談支援専門員・実習生・自治会役員・警察・企業・金融機関・MSW・地域住民・当事者家族・社協職員・成年後見センター・生活支援コーディネーター				

5. 地域ケア会議の開催や、地域包括ケア体制の構築について、感じている課題（自由記載）

- 個別会議がなかなか開催できない。
- 個別課題の解決、ネットワークの構築は進んでいると感じる。（4）
- 地域課題やその先の政策形成や提言等に繋がらない。（4）
- 個人情報取り扱い上、情報共有ができないことがあり、退院支援など困難。
- 守秘義務の遵守の基実施されるが、小さな範囲では相手がわかってしまい不

透明な感じがある。

- 通常業務に忙殺され、地域全体の課題に取り組めない。
- 包括ケア体制の構築が、我が事になってこない。専門職としての目が地域に向いてこないように感じる。
- 集約としての地域ケア会議（推進会議）を実施し、その後、再度地域k 第二結び付けながら、自治会単位で住民同士の話会える場を設けたい。
- 地域により違いが生じ、対応に苦慮することもある。
- 参加者の偏りがある。
- 地域課題の庁内連携が難しく、共通認識をもって取り組むことができない。
- 地域に密着した病院の居宅介護支援事業所と他の事業所で医療連携のスピード感が違うと感じる。
- 関係者の日程を合わせる事が難しい。特にサービス提供時間と重なるため、現場スタッフとの日程が合わず、現場の声を共有することが困難。